

## 心臓病手帳運用マニュアル

### 1. 目的

- ◆ 心臓病患者の心血管イベントを抑制し、予後やQOLを改善する
- ◆ 心臓病患者自身が疾患や治療歴等を把握し、日々の健康管理をすることで、再発・重症化を予防する
- ◆ 心臓病患者と医療者・多職種との連携を促進し、より適切な管理につなげる
- ◆ 心臓病患者の診察時や緊急時に役立つ、情報共有ツールとして活用する

### 2. 対象

心臓病を発症し、再発・再入院の予防のために自己管理を要する患者

(心臓病：心不全、虚血性心疾患、不整脈、弁膜症、心筋症、大動脈・末梢血管疾患、肺高血圧症など)

※高血圧のみの患者には、他の血圧手帳をご活用ください

### 3. 内容

『心臓病の記録』(青)

- ・患者情報 ・治療内容(虚血性心疾患・不整脈・心不全など)
- ・各種ガイドライン(※高血圧・糖尿病・脂質異常症・心不全) ・AMI二次予防クリニカルパス

『毎日の記録』(ピンク)

- ・かかりつけ医への相談・受診の目安 ・血圧・体重測定の注意点
- ・血圧・体重・症状の記録 ・医療者通信欄・多職種連携欄 ・検査結果の記録

### 4. 運用方法

#### (1)患者への説明と同意

医療従事者が対象患者に対し、自己管理の重要性を説明し、口頭で同意を得る。

#### (2)手帳の配布と説明

以下の2冊を配布し、それぞれの目的と使い方を説明する。

『心臓病の記録』：病状説明時に治療内容を記載。各種ガイドラインを参照し、目標値を患者と共有する。

『毎日の記録』：血圧・体重の測定方法を説明し、相談・受診の目安についても確認する。

※入院中に、患者が血圧・体重を測定し、手帳に記録できるよう繰り返し指導する。

#### (3)外来でのフォローアップ

外来などの診療時に、手帳の記載状況を医療従事者が確認する。

※患者が手帳を持参する習慣が身につくよう、毎回確認し、自己管理の継続を促す。

### 5. 心臓病手帳の入手方法

長崎大学病院 脳卒中心臓病等総合支援センターのホームページよりオンラインフォームでご注文ください。

- ◆ 長崎大学病院 脳卒中心臓病等総合支援センター ホームページ

<https://www.mh.nagasaki-u.ac.jp/nou-shin/>

「トップページ」>「医療関係者の方へ」>「心臓病手帳の注文」